

今月の題字



熊野東中学校 1年 竹田 凜々愛 さん

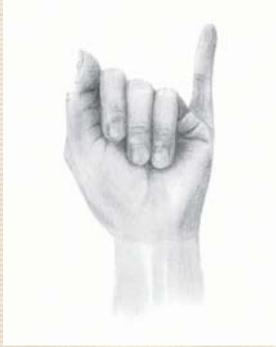


熊野東中学校 1年 溝上 晴太 さん



【評】 力強い線質にそのりいなやかな線もよく書けています。

熊野東中学校 3年 反田 菜月 さん



【評】 じっくりと形を観察し、自分の手の特徴をとらえて描くことができた。立体感を出すために、鉛筆の使い方を工夫して試行錯誤を繰り返しながら描くことができています。

熊野の自然 (377)  
スイバ (タデ科)



葉を噛むと酸っぱいので「酸い葉」。別名、スカンポ。日本全土の田畑の畦や土手などに普通に見られます。若葉や若い茎が食べられます。昔、子供達は野原で遊び生の茎をかじり酸っぱい味を楽しみました。さつと茹でて水に晒し、お浸し、和え物などにします。欧米では栽培もされています。酸っぱいのは「蓼酸」(シロウゴン)を多く含んでいるため、食べ過ぎは体に良くありません。多年草で、根生葉は多数。長楕円形で基部は矢尻形です。長さは10〜20cm。長い柄があります。冬の若葉は、全体に赤く染まる場合があります。蓼酸を含んだ葉は、寒さに強く冬でも元気です。茎は直立し高さ30〜100cm。

茎の葉は互生し、上方の葉は無柄で茎を抱いています。雌雄異株で花期は4〜8月。茎の上方に小さな花を付けた細長い花序を多数互生し、花序全体は円錐形になります。花弁はなく、花被片(萼片)は6個です。雄花は6個の黄色い葯が垂れ下がっていて、風に揺れ花粉を飛ばします。3個の雌しべの先は細かく裂け、赤い毛糸の房のように。花粉を受け止める最適な形です。花後、雌花の内側の花被片3個は円い翼状に成長し、中の種子の散布を助けます。高等植物で、雌雄を決める性染色体が最初に発見されたのが、このスイバです。

【写真・文】

緑花文化士 富沢由美子

筆の駅ミニギャラリー

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、2月4日(木)から予定していました次の展示は1年間延期となりました。

●富士山絵画展 (青岳庵コレクション)

熊野町在住の絵画コレクター「青岳庵(大立純正)」さん3回目の絵画展。今回は日本人の心の原点である富士山をテーマに木版画、リトグラフの技法を用いた川瀬巴水、井堂雅夫、定方魂石などの作品です。



熊野町観光案内所「筆の駅」 熊野町出来庭10・6・24

開855・1123 (いいふみ)

開10時〜16時

(各展示の最終日は15時閉場)

休水曜日・第3日曜日

年始(1月6日(水)まで)

※無料

※ギャラリーのご利用については、お問い合わせください。

熊野町公式アカウント facebook

子育て支援情報アカウントこどもでりん LINE

熊野町観光大使でりん 公式アカウント facebook

熊野町観光大使でりん LINE

防災無線放送再生ダイヤル 082-820-5640 (放送終了後24時間自動消法)